

「第2回JEASフォトコンテスト」審査結果の報告

当協会の設立35周年・一般社団法人移行を記念し、2012年度に第1回JEASフォトコンテストを行い、大変ご好評をいただきました。引き続き2013年度も、第2回JEASフォトコンテストとして、2014年度のJEASニュースの表紙写真を会員から募集しましたところ、たくさんのご応募をいただきました。誠にありがとうございました。ここに、その審査結果をご報告いたします。

1 フォトコンテスト審査結果の概要

(1) 応募の状況

2013年7月から12月までの応募期間中に、7名から合計26作品の応募がありました。

応募作品を季節別に整理すると表-1のとおりとなります。第1回に比べ、応募作品数が若干減りました。特に業務の繁忙期にあたる春と冬の応募作品が少ない状況でした。

(2) 審査の状況

2014年1月、協会外部から特別委員としてお招きした写真家の村田一朗氏立ち合いの下、JEASニュース編集委員から7名、制作担当のオフィスK2栗原正治氏の計9名によって、厳正な審査を行いました。

季節ごとに審査し、応募数が少なかった春と冬は、

各委員につき1点を選んで投票しました。応募数が多かった夏と秋は2点を選んで投票し、最多得票を得られた作品を入選としました。

(3) 審査結果

入賞作品は表-2に示すとおりです。各作品は季節ごとにJEASニュースの表紙を飾り、約2,000部が全国に配付されます。

(4) おわりに

引き続きコンテスト形式で、今年度も表紙写真を募集いたします。募集の概要は、裏表紙のお知らせに掲載しております。

(編集委員：上原 励)

■表-1 季節別作品数

季節	応募数
春	3
夏	8
秋	11
冬	4
合計	26

■表-2 入賞作品一覧

季節	作品タイトル	受賞者氏名(敬称略)	所属
春	飯豊の春	高柳茂暢	アジア航測株式会社
夏	大暑のアゲハチョウ	多賀大輔	株式会社建設環境研究所
秋	北海道・大雪山の秋	藤嶋康夫	株式会社数理計画
冬	冬、伊豆の迎春	稲葉修一	株式会社建設技術研究所



■特別委員のご紹介

村田一朗 Ichiro Murata

職業：山岳写真家
 住所：神奈川県鎌倉市
 経歴：1964年3月28日生まれ。
 1986年3月 東海大学海洋学部海洋工学科卒。
 1997年12月 第35回(1997年度)「岳人」年度賞受賞。
 2006年 山岳写真家として独立。
 共著：「スローシャッターバイブル」(玄光社)、「D800&D800E完全ガイド」(インプレスジャパン)など多数。
 主な掲載誌：「アサヒカメラ」、「デジタルカメラマガジン」、「フォトテクニックデジタル」、「月刊カメラマン」など。

2 フォトコンテスト講評

コンテスト全体及び各入賞作品について、村田一朗特別委員に講評をいただきました。企画から審査、講評にわたりご協力いただきましたことに感謝いたします。

(1) 全体講評

第2回JEASフォトコンテストの結果は、前回より力作があまり見られなかったのが残念。環境問題に留意したテーマが望ましいが、広く風景一般での応募も受け付けているのでぜひ、第3回にはご応募をお願いしたい。

そんな状況下であったが、足元の作品からスケールの大きな作品まで選に入り、四季折々に楽しめる結果に

なったと思う。足元の写真は評価されることが少ないが、誰にでも撮れるがゆえに難しい。ほんの少し構図を考えたりシャッターチャンスを狙ったりすると良い写真に結び付くのでお散歩や小旅行の際にでもカメラを持ち出してみるのも手だと思う。

(2) 入賞作品講評



「飯豊の春」

池面に投影した残雪の山を狙っての撮影。山では風があることが多く、なかなか綺麗に写りこんでくれないものだから、撮影は苦勞したことだろう。残雪の具合も丁度良いと思う。梅雨の合間の晴天を狙っての撮影だろうからなかなかチャンスに恵まれなかったことだろう。た

だ、画面が中央で割れてしまっているのが残念。どちらが主題でどちらが副題なのか気持ちの整理をして撮影時にはっきりさせると、より良い作品が撮れるようになると思う。夜明け頃のマジックアワーに撮影するなど、より高みを目指してがんばってほしい。



「大暑のアゲハチョウ」

アゲハチョウに限らず、蝶の撮影では抜けた背景の物は少ないと思う。蝶自身が小さいために寄って撮ることが多く、勢い背景はボケてしまって形を残さないか、地面が写りこむこととなる。蝶が飛ぶ空間を意識させて画面構成しているのはさすがだと言える。だとすれば、より空間を

強調するために左側と下側を廃し、青空をもっと入れたほうが画面に動きが出て蝶が羽ばたいていくイメージを創れたのではないか。フォーカスゾーンが中央部にしかないなど機材的な問題をクリアしてより良い作品づくりに努めてほしい。



「北海道・大雪山の秋」

北海道の秋は一気に冷え込むこともあり、すばらしい紅葉にめぐり合うことがある。そして新雪と青空を従えた3段染めが一つの景観でもある。紅葉のピークは実は半日位しかなく、本当に良い紅葉を撮るにはピークの前後で粘るしかないし、ピーク時に雨天という可能性もある。

そういう中でよく撮られていると思う。画面下2/3は紅葉の映えも良いが、画面上1/3は黒浮きしており、力強さをスポイルしてしまっている。遠景になるとどうしてもそういう傾向が強くなるので、画面から外して、本当に美しいところだけを撮ることも覚えてほしい。



「冬、伊豆の迎春」

咲く花が少ない冬には水仙や椿は貴重な被写体だ。ところがいざ撮影しようとする、かなり難しい被写体でもある。アップにして面白い被写体ではないし、引いて撮ると景観が良くないと絵になりにくい。そういう中で景観を生かしながら良くまとめていると思う。絞らずに撮ったおかげで背景がうるさくなりすぎないのも功をな

したと言える。惜しむべきはビントの合っている水仙の真上に太陽が来ていて、構図的に面白くない。20〜30cmほど撮影位置を右に移動すれば太陽の位置を画面左上から、画面右上に持ってこれたはずで作品に奥行きができたと思う。シャッターを切る前に主役・副役の配置を考えてやると良い。